

まちの日記帳



勝利へアタック

10/21

第17回B&G会長杯バレーボール大会が海洋センターで開催されました。

女子の部のみで争われた大会には、3チーム18人と参加チームが少ない状況でありましたが、各チームとも優勝を目指して白熱した試合が展開され、会場は熱気に包まれていました。なお、大会結果は次のとおりです。

【優勝】

バレーボール愛好会チーム

(代表 畑谷 昇子さん)

【準優勝】

トシマーズチーム

(代表 松浦 敏子さん)

【第3位】

ガンバローズ

(代表 青木登紀子さん)



カラオケの集い

開催

10/25

町内のカラオケ愛好会などが集う「積丹町カラオケの集い」が総合文化センターで開催されました。

このカラオケの集いは、美川憲一さんが歌う「神威岬」の編曲をされた井戸のりお先生が積丹町を訪問されたことがきっかけとなり3年前から井戸先生をお招きし、町内のカラオケ愛好会が主催しているものです。

この日は22人の参加者が自慢ののどを披露、歌唱終了後には、井戸先生による声の出し方などの歌唱指導のほか、歌謡ショーが行われ、会場は大いに盛り上がりを見せました。



町民自らの力で

町の活性を

10/28

美国町船溜に現存する鯨番屋の旧ヤマシメ邸（福井家）を再生して、町内に点在する他の番屋等を遊歩道で結び、町にぎわいを取り戻そうと町民有志の推進組織が発足、総合文化センターで設立総会が開かれ約40人が出席しました。総会では、組織の名称を「やん集小道づくり推進協議会」とし、会長には成田静宏さん（美国町）を選出しました。同協議会では、今年度旧ヤマシメ邸の内部清掃や屋根の修理を行う予定となっています。



積丹半島の旅・

体験観光

11/4~5

「積丹半島ゆとりツアーリズム モニターツアー」が行われ、東京などからの参加者5人が積丹町を訪れました。

積丹町が主催、北海道観光振興機構の財政支援を受け、当町のほか、余市町、神恵内村などかつてニシンの千石場所として栄えた地域の文化、歴史に触れ、地元の味覚を味い、道外の方々が体験した感想をもとに、今後の新たな積丹半島体験ツアーのプログラムづくりに役立てようとするものです。参加者は積丹岬遊歩道を散策、そば打ちや浮き玉網み体験、積丹の旬の味覚を堪能していました。



港はきれいに
使いましょう

11/9

美国漁港のプレジャーボート利用者で構成する美国漁港利用協議会（八戸良一会長）は、美国漁港内の清掃活動を行いました。例年春と秋の2回実施しているもので、同協議会の会員35人が参加して行われました。

参加者は、港内の散乱物や海上に浮遊してきた空き缶やペットボトルなどを拾い集め、約2時間にわたり清掃活動に汗を流しました。

また、10月17日には美国漁協女性部の皆さんが漁港内の花壇の草取りを行い清掃活動に参加された方々により漁港内はきれいになりました。



歯はきれいに
磨きましょう

11/10~11

小樽歯科衛生士会の新岡和枝さん・藤野千佳子さんを招いて、各小中学校や保育所などで「はみがき教室」を行いました。

各小中学校では虫歯のでき方などの「歯」に関する学習を行った後、正しい歯の磨き方について、指導を受けました。また、保育所や子育て支援センターでは保護者も一緒に参加して、「仕上げみがき」の仕方について一人一人丁寧に指導を受け、教室に参加した方々から「楽しく学ぶことができた。」「また先生に来てほしい。」という意見が多く聞かれました。



美国小6年生
そば打ち体験

11/13

美国小学校6年生18人は自分達でそばを栽培し、収穫して石臼でひいた「そば粉」を使って、そば打ちに挑戦しました。

これは、総合的な学習の時間一環として行われ、学校菜園を利用して作物の栽培を通して、「食」すること考え、そばを栽培することに決まったものです。6月の下旬に種蒔き作業から始まり、休み時間等を利用しながら草取りや水まきを行い、9月下旬には収穫、11月上旬には石臼を使って粉引きが行われ、25kgのそば粉が出来あがりました。

そば打ちは同校の事務職員の



実演による指導で行われ、児童たちは4班に分かれて、水まわし、こね、のし、切り、茹での一連の作業に沿ってそれぞれ挑戦しました。「そば切り」の作業では普段使うことが無い大きな包丁に苦戦しながらも、そばの太さが、揃うように一生懸命取り組んでいました。

そばは、給食の時間に合わせ、ざるそばに仕上げ、先生お手製のつゆと一緒に食べた児童達は「おいしー」の連発で、調理の苦勞を忘れ、教室は、そばのすする音を響かせていました。

